

	～ 21世紀をたくましく切り拓く人間の育成をめざして～
学校教育目標	<p>① 一人ひとりの個性・能力の一層の伸長。</p> <p>② 自分で考えることができ、意見を積極的に主張できる人間の育成。</p> <p>③ 広い視野と「千萬人」の気概を備え、国際社会・地域社会で活躍できるリーダーの育成。</p> <p>④ SSHの成果をふまえ、先進的な取組により、本校の伝統ある理科・数学教育の発展を図る。将来有為な科学技術系人材の育成をめざすとともに、文系分野にすすむ生徒にも、科学・技術を人間・社会との関係まで見通しながら自ら判断し、行動できるための科学的要素を育む。</p>
今年度重点目標	<p>① SSHの諸活動(高校)やアカデミック・コミュニケーション(中学)を軸に、課題発見能力の育成を図るとともに、主体的・対話的で深い学びを追究する授業改善をより一層進める。</p> <p>② 生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実を図る。また、特に高校において、高大接続改革に向けた研究や実践を進める。</p> <p>③ SC・SSWも活用しながら相談支援態勢を充実させ、不登校や学校不適応の未然防止を目指す。</p> <p>④ 学校を外に開き、生徒・保護者への情報発信に努める。また、いじめや体罰のない学校づくりをすすめ、より一層地域から信頼される学校を目指す。</p>

※評価(達成度) 1:不十分 ～ 5:十分達成された

教育目標	取組	評価の観点	達成度 (5段階)	意見(本年度の取組・次年度への課題等) ○成果、◆課題、■改善策・向上策	(参考数値)
課題発見能力の育成 および、主体的・対話的で深い学びを追求する授業改善	①授業やテストにおいて、情報分析から課題発見を促すような発問や、答えが一つではない発問を多くし、考察、発表も行い、討論するような機会を多く設ける。	①授業やテストにおいて、課題発見を促すような発問、答えが一つではない発問を多く取り入れたか。	4	○各分野で知識を活かすことで、自ら課題解決する問かけが各教科で成された。 ■各教科・学年でそれぞれの弱点等をしっかり共有し、学習者である生徒の立場になった授業改善・授業づくりに努める。 ■より効果的に電子黒板などICT機器を使った授業、生徒が興味を持つような教材(例えばICT機器を使った動画教材など)の作成。	・学びの基礎診断 ・試験成績(模試・センター試験) ・生徒による授業評価
	②問題発見、課題研究などの授業や、その他のSSH諸活動が、生徒が自ら問題を発見し探究する機会となるように環境を整える。	②生徒が調べ、考え、討論できる環境を整え提供できたか。	4	○SSHの発表を通じて、生徒が自ら問題を発見し探究する姿勢が見られた。 ○多様な視点で主体的な探究が行える環境が作られていました。 ◆タブレットが検索中に動作が止まることが多い。 ■他の学校の事例紹介や海外の事例などを紹介するなど問題の捉え方や考え方の枠を広げるように努める。	
	③自ら考えて課題を見つけ出し改善していくクラブ活動・学友会活動の実現。そのための顧問の助言や指導。	③クラブ活動の時間、場所を保障し、自ら考えられるようになる指導ができたか。	3	○文化祭など生徒が主導して企画運営することができている。	
生徒それぞれの進路希望実現のため、学習指導、キャリア教育等の更なる充実 および高大接続改革に向けた研究・実践	①社会的・職業的に自立した人間の育成を目指し、合同HR、講演会等により、進路意識の向上を図る。また、進路研究への支援を行い、キャリア教育を推進する。	①進路係と各学年間の連携が十分に図れたか。生徒の進路意識を向上させ、高い進路目標を持たせることができたか。	4	○◆自分の進路、キャリア形成に向けた真剣な眼差しを強く感じる。それに応える仕組が不十分な部分がある。 ■生徒が集まり、学びに没頭する生き生きとした学校となるために、支えや対話を中心とした生徒へのかかわりを強めていく。 ■進路に向けての講演会は、貴重な経験であるが、問題を抱えている生徒のためには違った面から大学が全てではないという様な卒業生の講演の設定も必要である。 ■様々な職業の方に集まってもらい、自分がなりたい・興味がある職種の方のお話を聞く機会を増やしたらどうか。将来の自分の姿がイメージできるのではないか。	・大学合格状況 ・実力テスト及び模試の検討回数 ・生徒意識調査 ・学習時間調査
	②整理テスト、定期考査、校内模試、校外模試の分析をもとに、毎日の家庭学習、土曜講座、テスト前後の学習の質と量の充実を図る。	②各種テスト後の分析を行い、その後の学習指導に分析結果を活かすことができたか。	4	○■学習の質と量の充実は図られてきているが、引き続き課題等に改善を図っていく必要がある。 ◆推薦や私大入試への指導が手厚いとはいえない。入試が変わることで、学内テストや評価をどう改善する検討する必要がある。 ■卒業生(大学生)との対話の機会を増やし、高校時代どんな生活をしてきたのか、またそれが受験にどう役立ったかなどを聞く機会を増やす。	
	③学校における諸活動から課題を見出して探究的取組を行う。	③生徒の科学技術に対する理解が深まり、課題の発見と探究に対する意欲が向上したか。	3	○長野市へボランティアに参加した生徒が2月の課題発表で「自然災害の危険性」の発表を行った。身近な問題を探究・研究する生徒が多い。 ○SSHの発表を見ると生徒の科学技術に対する講評は年々高まっている。 ◆探究の先にどうやって社会貢献するか。また、そのためにどこで学びたいのか各々目標として持てるとよい。	
相談支援態勢の充実と不登校・学校不適応の未然防止 およびいじめのない学校づくり	①生徒の立場に立って、心身の状態を深く洞察しつつ、成長を支援するための指導を行う。	①生徒の状況をつぶさに観察し、生徒の相談に十分に対応できたか。	4	○個々の生徒の状況を日常的に把握するとともに、不登校生徒にも係・担任を中心に様々なケアが行われた。 ■生徒の状況をつぶさに観察し、少しでも様子がおかしければ、早めのSC・SSWへと繋げられる体制作りをしていく必要がある。	・生活実態調査
	②学校生活における全般的なモラルの向上に取り組む。	②生徒の自主性・自立性に寄与する指導ができたか。	4	◆■公共マナーの低下から、地元からの叱責された。学校と家庭の両面から改善を図っていききたい。 ■生徒の「自立」については心もとないものを感じる。生徒と様々な場面でかかわりを多く持つていききたい。	
	③狭い枠組みを抜け出し、地域や社会を見通すことのできる態度を育成する。	③地域社会の人々、特に周辺住民から応援されるような学校になっているか。	3	○同窓会を中心に様々な支援をいただいている。 ◆■学校の地域とのつながりの創出や取組PRは弱い。PRの強化を図っていききたい。	
	④いじめを絶対に許さない校風を維持する。	④いじめ防止のために、機会をとらえての指導ができたか。	3	○無記名のいじめ防止アンケートを実施、分析、検討し、クラス担任の先生を中心にいじめ問題把握を援助した。 ■課外活動や通信モラルの面からも生徒の実態把握を継続していく。	
開かれた学校づくり	①ホームページのリニューアルを行って、更新回数を増やし使いやすいウェブサイトの運営を目指す。	①ウェブサイトによる情報発信は充実していたか。	4	○◆全体的には検索し易いが、特に伝えたい事が目立つような工夫をしていききたい。 ■生徒自ら発信できるページの創設など様々な検討を行っていききたい。	・ウェブサイト更新回数月2回程度 ・広報紙発行回数年2回 ・授業公開来校者数5校
	②開かれた学校づくりを目指し、授業公開などを積極的に活用し保護者、地域、中学生に清陵高校を理解してもらう。「清水ヶ丘便り」学校案内、パンフレットを活用する。	②本校の教育活動を保護者、中学校、地域住民等に十分に伝えられたか。	4	○開かれた学校づくりは着実に進んでいる。 ○学校からの様々なお便りはかなり詳細に書かれており充実している。 ◆台風の影響で授業公開が中止となり、代替え企画が日程の関係で行うことができなかったが、見学希望者には個別に対応することができた。	